新型コロナウイルスワクチン接種についての情報提供

コロナワクチンは人類に対して初めて使用される遺伝子ワクチンであり、まだ治験の途中で緊急使用されているため、効果や安全性の情報が不足しています。接種は強制ではありません。本人が希望する場合のみ接種が行われます。薬品の投与には必ずリスクが伴います。効果とリスクの双方を理解した上で、自らの意思で判断する必要があります。当院では患者様の健康を考え、最新の情報をご提供させて頂きます。判断材料としてご利用頂けると幸いです。

＜効果＞

・発症の予防および重症化の予防を期待（治験中のため効果は不明）

※あくまで発症の予防であり感染の予防効果は不明（厚労省発表）

ｲｷﾞﾘｽは非接種者より2回接種者の方が約2倍感染率が高いというﾃﾞｰﾀを公表

※政府は国外用のワクチン接種証明書を発行。国内での運用を一部開始。予防接種法に定められた非接種者への差別防止の付帯決議に違反している。

＜リスク＞

◎日本における副反応の疑い事例（2月17～12月3日　厚労省発表）

・死亡報告　1387件　→　1431件に増加！！（12月24日）

※平成30年のインフルエンザワクチン接種後の死亡報告数3件

・副反応報告数　2万9453件　→　3万206件に増加！（12月24日）

・アナフィラキシー　3521件　→　3602件に増加！（12月24日）

・重篤な副反応　5949件　→　6146件に増加！（12月24日）

心筋炎、脳血管障害、失明、ギランバレー症候群など

・2回目の接種後90％以上に発熱、頭痛、強い倦怠感、関節痛など（これらの症状は報告義務がないため副反応件数に含まれていない）

◎アメリカの状況（12月17日時点　CDC等発表）　副反応報告数98万3756人

・死亡　2万0622人　・入院　9万9943人　・緊急ケア　10万8572人　・アナフィラキシー　8590人　・心筋炎　20560人　・流産　3365人

＜考察＞

接種直後に死亡する若者が急増している。10代6人、20代29人、30代25人。殆どが持病もなく健康だった若者たち。厚労省は情報が足りないため死因が特定出来ないとし接種との因果関係は不明としており、更なる情報収集が必要として接種が継続されている。つまり国民の命を使った「新薬の治験」であると認めているに等しい。普通、薬で死者が出たら処方を止める。因果関係が不明なら尚更解明されるまで使用は停止するのが当然。にも関わらず、3月には5歳～11歳も接種対象となる。コロナ死亡者とされている人の平均年齢は日本人の平均寿命と同じ80代。10歳以下の死亡者はゼロ。何故、重症者も死亡者もいない子供に接種させる必要があるのか？大きなリスクを伴う治験に参加させるメリットは？接種はあくまで任意だが、子供に決定権は事実上ない。保護者が本気で考えないと取り返しのつかない事態になることは間違いないだろう。

「遺伝子ワクチンの主作用」

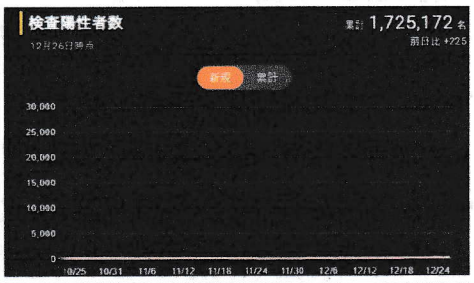
昨年、ファイザーと遺伝子ワクチンを共同開発したビオンテックがmRNAワクチンの技術で自己免疫疾患の治療薬が作れるという論文を発表しました。mRNAを体内に入れるとスパイク蛋白が生成されます。スパイク蛋白は毒物なので自然免疫が活発に働き細胞も攻撃され強い症状が出ます。それを抑制するためにTreg細胞という抑制性サイトカインを放出して免疫系全体の機能を抑制する細胞が誘導されることが明らかにされました。自己免疫疾患は、自分の免疫が誤作動して自分の身体を攻撃してしまう疾患ですので、Treg細胞により免疫を抑制することにより治療が可能になるかもしれません。

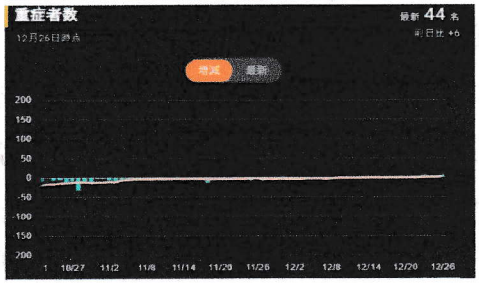
以上の実験には現在多くの人が打っているコロナワクチンが使用されています。つまり接種した人の身体でもTreg細胞が働いていることになります。コロナウイルスに感染すると、基本的には無症状か軽症で治りますが、稀にサイトカインストームを起こし重症化するとされています。サイトカインストームは免疫の暴走で起こりますので、Treg細胞を誘導し抑制性サイトカインを放出させ、稀に起こるサイトカインストームを抑制し重症化を防ぐことが出来る。それが今回のワクチンで重症化を予防出来るという理屈になるようです。よううするに、免疫力を抑制することが遺伝子ワクチンの主作用であるということです。

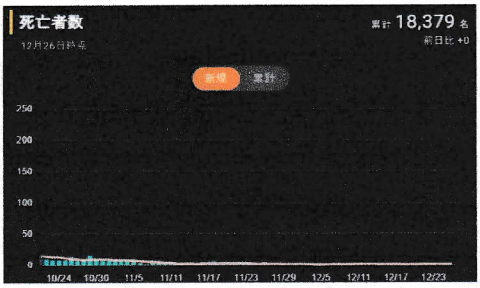
現在、欧米を中心に感染が拡大していますが、2回接種済みの方が未接種より感染率が高いというデータが各国から出ています。3回目を接種すると更に感染率が上がり「ブースターブレイクスルー」などと言われて始めています。これは遺伝子ワクチンを接種したことによりTreg細胞が誘導され免疫が抑制されたことによって、より感染しやすい身体になっている証拠です。スパイク蛋白に対する特異的な抗体は作られますが、それは初期の武漢株に対するものであって、変異し

ワクチンよって生成される抗体は変異株には働きませんが、自然感染し獲得した抗体は交差免疫となり変異株にも作用します。重要なのはT細胞の働きになりますが、Treg細胞はそれを抑制してしまいます。現在日本は自然感染により集団免疫の状態となっていますが、3回目接種が進むことでT細胞が抑制されると、また感染爆発となる可能性も否定できません。更に白血球やマクロファージ、NK細胞などの自然免疫も抑制してしまうので、様々な病気に罹患しやすくなります。接種後、帯状疱疹に罹る人が増えているのは免疫力が低下している証拠です。スーパーコールドという「治りにくい風邪」も世界中で流行しているそうです。そして今、一番懸念されているのが癌の増加です。癌細胞は身体のあちこちで1日に相当数発生していますが、それらはほぼすべてNK細胞などの自然免疫によって処理されています。しかし、接種するほどに免疫は抑制されていきますので、どんどん癌も増えていくことになると予想されています。

以上の事柄は私の意見でも考えでもなく科学的な事実です。事実として接種すると主作用で免疫力が抑制される。よってコロナにも感染するし感染させる。重症化も抑制される可能性もあるが、そもそも弱毒のため殆どの感染者が重症化しない。コロナ以外の病気にも罹りやすくなる。これが事実です。他にも副作用の問題やADE(抗体依存性感染増強)、遺伝子が組み替えられている可能性など、懸念材料は尽きません。事実を知った上でどう行動するかは個人の自由。周りの意見に振り回されず、自らの意思で選択して頂きたいと切に願います。







直近2ヶ月の陽性者・重症者・死亡者の推移 ☝ 一目瞭然ですが、何も起きていません。騒動はテレビの中だけで起きています。恐怖と不安を煽り、スポンサーである製薬会社のためにワクチン接種を勧めている。これが事実です。